

が、地区外（同じ都道府県以外）からのタスクフォースの数の最低数を決めた方がよいと思う。当県では、シニアタスクフォースを含め同じ地区の他県から3～4名に来ていただいている。緊張感の確保、勝手な解釈によるWS内容の歪みの防止、他県の情報収集に役立っていると自負している。

- ・ WS受講後のコミュニケーションが少ないように感じる。
- ・ 大学で実務実習に関わっている先生方がほとんどWSを体験されてしまい、実務家以外の先生方の出席は望めず、グループ編成に困ることがある。実務家以外の先生方が出席しやすい環境整備が必要である。
- ・ 様々な教育技法があることを指導薬剤師の皆さんにお伝えしていくことが大学の責務と思う。例えば、PBLという学習方法も全ての指導薬剤師が理解している教育技法ではないと思う。大学が提供できる全ての資源や技術を指導薬剤師の皆さんにも共有していただきたいと考える。
- ・ タスクフォースがWS慣れして、自分がWSの参加者であった当時のレベルを忘れてしまっている。1度参加しただけで理解し活用できると「教授錯覚」を起こしている。1度しか参加させないならそれなりの内容にすべきである。
- ・ WSは金がかかり過ぎる。タスクフォースは奉仕、全て自前で参加するぐらいの気持ちが必要である。
- ・ 今までには必要人数の養成ということで仕方なかったが、この2年間、一応実務実習は回った。調整機構は実習調整が目的である。個人資格の為に受講する者も決して少なくない。よって、必要と感じる大学が責任を持って自前で開催すればよい。
- ・ 今後、各組織、大学からの出資方法や運営方針等、WS運営における地区調整機構の在り方について議論すべきである。今後は指導薬剤師を必要とする教育機関が主催で開催する方向に進むべきである。
- ・ コンサルタント、統括チーフタスクフォースが特定の方に限定されているように感じる。今後継続してWS、アドバンスWSを行うのであれば、資格や何らかの認定があった方が理解を得やすい。
- ・ このアンケート結果はぜひ各地域の調整機構で共有していただければと思う。
- ・ WSで指導薬剤師を養成するのはいいが、個人の資格なので転職などで職場にいなくなることが多く、職場になかなか充足しない現状がある。指導薬剤師をしないのであれば認定を返上するなり、しっかりした更新制を取るべきである。
- ・ プレゼンテーションの方法が本年度大きく変わり、当初のプレゼンの理念（参加者の表情を見ながらプレゼンする。）が大きく変わった。慣れしていないタスクフォースは対応できておらず、本番での失敗も目につく。現在、タスクフォースはWS経験者から団体の推薦で担当しているが、ある程度資格を明確にしてもよいのではないか。特に、アドバンスWSでは、教育者・指導者にはある程度基準を設ける必要がある。
- ・ タスクフォースのスキル維持と新任タスクフォースへのスキル伝達が行える機会が必

要であり、そのためにも通常、あるいはアドバンスト WS の定期的な開催が望まれる。

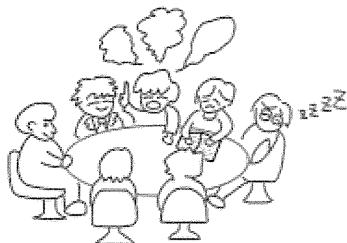
- ・ 現場が良い仕事をしていないと、良い教育は出来ませんし、良い薬剤師も生まれません。夢が無くなり、モチベーションが高まりません。給料が良いからだけが、薬剤師の魅力で良いですか？ 魅力的な仕事をしてそれを後進に伝えて、薬剤師という職種を国民に広く理解してもらいたい。その意味ではまだまだ不十分と考える。
- ・ WS のタスクフォースとして参加するようになって県を越え、大学、薬局薬剤師、病院薬剤師のつながりができた。この関係をもとに次の仕事を行う場合には地域で何をしたいのかを十分に議論して取り組むべきと考える。海外では薬剤師が地域住民の健康管理を行い医療費の総額を減らせた事例など報告されている（アッシュビルプロジェクト）。地域の薬局、病院薬剤師が一体となってもっと国民の健康管理に活躍できるような取り組みを行うなど出来たらよいと思う。学校薬剤師の活動も同様である。この言葉を知っている国民はどれだけいますか？何をやっているのか説明できますか？たぶん悲惨な状況でしょう。この責任は誰にありますか？私たちみんながよく考えたほうがよい。
- ・ アンケート結果を拝見すると「実際に役立っているか」という問いに対して、やや否定的な意見が多いように思われる。現在の WS の考え方からいうと、そこまで要求するのはなかなか難しいと思われるので、現実的な解決策、ないしは、対応の方法を示すことのできる WS や講演会等の企画を別途行う必要があると思う。
- ・ 現行の WS は数年後に廃止し、6年制薬学教育期間中に実施(受講を希望している現実務薬剤師のために必要ならばそれなりの方法で継続)：
 - <理由1>
薬学教育における現行の WS は、「大学(薬学部)教員」は小、中、高校教員と異なり、教員免許を持たずに、すなわち教育（技法など）を知らずして教育している。
 - <理由2>
WS は医学部教育を見習い、「教育を学習しよう」というところから始まったと理解している。これらの考えが、6年制で実務実習の教育・指導に当たる実務薬剤師にも「教育」を学んでいただこう、ということへと発展的してきたと思う。
上記の小生の理解が大筋で正しいならば、6年制薬学教育中に、適切なタスクフォース（実務薬剤師を含めた）のもとで「現行 WS(内容は多少変えるとして)」を行えば、目的を達すると思われる。すなわち、薬剤師免許取得と同時に WS 修了の資格が得られることになるので、6年制卒業薬剤師に現行の WS をあらためて行う必要はなくなる。また、実務薬剤師は、貴重な2日間を WS 以外の面に有効利用でき、経費の軽減にもなる（OSCE、事前実務実習教育にも参画しているので忙しい）。
- ・ アドバンスワークショップの充実： 認定実務実習指導薬剤師(全員である必要は無い)、大学教員などを対象に行う・・・薬学人としての自覚を維持するため、また大学人と実務薬剤師との定期的意見交流の一つの場として。

- ・ ワークショップの主催？：実務実習薬剤師が中心の対象ならば、薬剤師会・病院薬剤師会が主催となるべきだと(現行のように?)と思う。
- ・ 統一されたプレゼンテーション資料について以下意見を述べる。

プレゼンテーション資料の今昔

1) <オリエンテーション>司会進行係の役割

Small Group Discussion



今

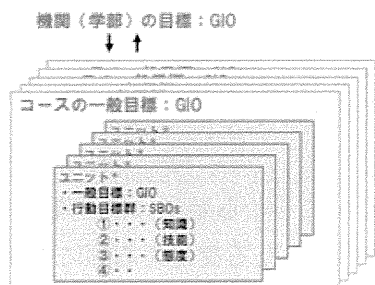
Small Group Discussion



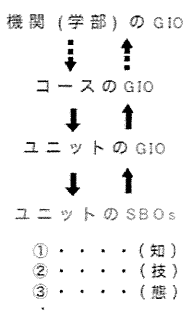
昔

司会進行係の役割のひとつに、内気でなかなか話に参加できない方への配慮があります。図の右端の方がその対象のはずですが、現資料では、何とこの方、眠っているではありませんか。眠ってしまうくらい退屈しているのか、昨晚飲み過ぎたのか、こうなると内気というよりも無気力とか太っ腹な方に見えてきます。

2) <目標>目標の階層的な構造



今

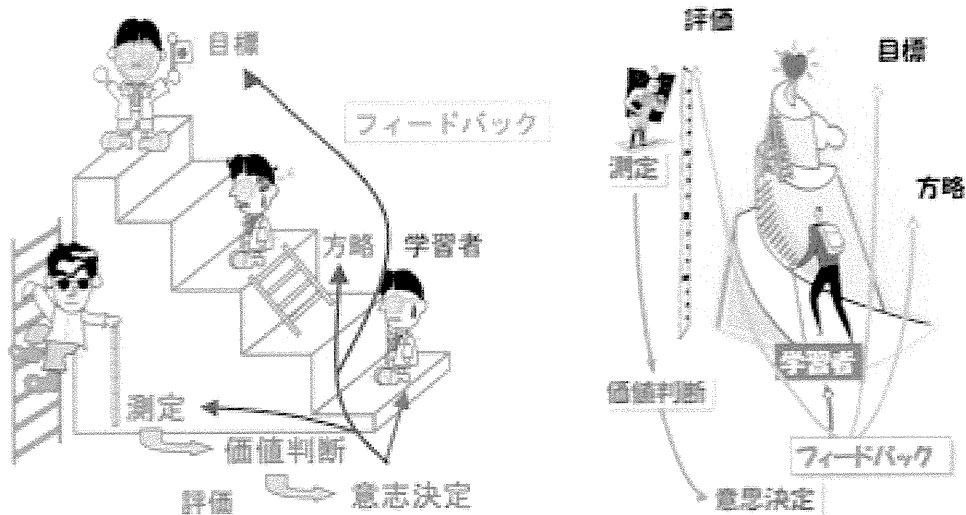


昔

目標の階層について、工藤先生をはじめ先達のタスクフォースは、機関の GIO に始まりコースの GIO、ユニットの GIO、ユニットの SBOs へと降りていく説明をされていました。この図は、実情はどうあれ、大きな GIO の達成のため直下に GIO が設定されて行き SBOs が設定されるという、目標設定のあるべき過程を説明する重要な役割を果たしていたはずですが。この目標設定の過程は、現在提唱されている学習成果基盤型教育の考え方に良く合致しています。ところが現資料では、ユニットの GIO・SBOs を示すところからアニメーションが始まります。GIO が次第に積み重なって機関の GIO に達するイメージです。しかしこの順番は、学習者が目標を修得して行く順番であり、次の山脈の図でとりあげる内容です。どのような考え方で目標が階層的になっているのか、学習者はどのような道筋で目

標を辿るのか、逆方向の両者を明確に区別しておかないと、下から積み上げていって最終的な目標が決まるというとんでもない誤解を与えかねません。

3) <評価>セッション後のまとめ



大昔と今

昔の一時期

現資料の階段の図では、学習者は初めの一段の高さにびびっています。途中でせつかくハシゴを使ったのに疲れ切ってへとへと、階段を上りきったときに初めてにっこり。これはWSで伝えたい学習のあり方ではなく、こうならないように、という例ですよね。この図を使ってプレゼンテーションするには相当な技量が必要になるでしょう。この部分、かつて山登りの図に切り替わった時期がありました。山登りの図を見ると、私は自分が歩んでいるような気持ちになり、また、歩みを見守っているような気持ちにもなります。理想的な学習のプロセスを考えてきた2日間のまとめとして、こちらの図の方がじっくり来ると思いませんか。いつの間にか階段の図に戻ってしまい、とても残念です。

いったい、なぜ、このようなことになってしまったのでしょうか。

研究者一覧 (敬称略)

【研究代表者】

須田 晃治 一般社団法人薬学教育協議会 業務執行理事・事務局長

【分担研究者】

平田 收正 大阪大学大学院薬学研究科・薬学部 教授

【研究協力者】

【病院・薬局実務実習中央調整機構 薬学教育者ワークショップ委員会】

委員(◎は委員長)

(地区調整機構)

北海道	遠藤 泰(北海道医療大学教授)	竹内 伸仁(北海道薬剤師会)
東北	東 裕(東北薬科大学教授)	丹野 佳郎(宮城県薬剤師会)
関東	阿部 芳廣(慶応義塾大学教授)	永田 泰造(東京都薬剤師会)
東海	大津 史子(名城大学教授)	野田 雄二(愛知県薬剤師会)
北陸	松下 良(金沢大学教授)	永野 康己(富山県薬剤師会)
近畿	◎平田 收正(大阪大学教授)	大原 整(滋賀県薬剤師会)
中国四国	吉富 博則(福山大学教授)	出石 啓治(岡山県薬剤師会)
九州山口	入江 徹美(熊本大学教授)	三浦 公則(福岡県薬剤師会)

(団体推薦)

日本薬剤師会	永田 泰造(理事 関東地区調整機構委員兼任)	
日本病院薬剤師会	松原 和夫(常務理事)	
(薬剤師研修センター)	久保 鈴子(常務理事)	土屋 浩志(課長代理)
(薬学教育協議会)	望月 正隆(代表理事)	須田 晃治(業務執行理事)
	百瀬 和享(業務執行理事)	
(薬学教育協議会推薦)	大野 尚仁(東京薬大学教授)	小佐野 博史(帝京大学教授)
	中村 明弘(昭和大学教授)	

【シニアタスクフォース】

*既出者については肩書省略

阿部 芳廣(慶應義塾大学) 大野 尚仁(東京薬科大学) 小沢 孝一郎(広島大学教授)
尾鳥 勝也(北里大学講師) 河野 武幸(摂南大学教授) 戸田 潤(昭和薬科大学教授)
平田 収正(大阪大学) 高橋 寛(日本薬剤師会) 三浦 公則(福岡県薬剤師会)
原 博(薬学共用試験センター)

【厚生労働省科研費事業実施ワーキンググループ】

*既出者については肩書省略

須田 晃治(薬学教育協議会) 百瀬 和享(薬学教育協議会) 平田 収正(大阪大学)
阿部 芳廣(慶應義塾大学) 大野 尚仁(東京薬科大学) 小佐野 博史(帝京大学)
永田 泰造(日本薬剤師会) 松原 和夫(日本病院薬剤師会)

資料 2-4

病院・薬局薬剤師アンケート調査結果

(記述回答・CDによる配付資料)

(薬学教育協議会ホームページ<<http://www.yaku-kyou.org/>>にも掲載)

病院薬剤師からの回答

(【 】内はアンケート調査票の回答記入枠を示す)

【記述 01】

2. ワークショップでの薬学教育に関する実施内容について

カリキュラムプランニングについて

③ カリキュラムプランニングについて経験したことは実務実習を行う上で役に立ちましたか。

役に立ったことが具体的にあれば、お書きください

- ・「指導する」ことの本質を理解できたような気がします
- ・1つの目標に到達するために、個々の学生にあわせて方策を工夫するようになった。
- ・5W1h
- ・GIO、SBOsの意義、位置づけについて理解して実習に臨むことができた。
- ・KJ法などが役立った
- ・KJ法のやり方を学び、学生にKJ法でグループディスカッションしてもらうことができた。
- ・SBOsについて理解が深まった
- ・SBOsの真の目的や考え方が理解できたのでSGDの時に指導しやすくなっていると思います。
- ・SBOなどの進め方
- ・SGDなどの活用
- ・SGDなどの方法論が習得できました。
- ・SGDの活用の仕方やロールプレイングの取り入れについて
- ・SGDの具体的な進め方を理解できた
- ・SGDの手法(KJ法など)また二次元展開法なども活用しています
- ・SGDの手法が理解できた
- ・SGDの進め方とまとめ方について
- ・SGDの進行
- ・SGDの進行方法
- ・SGDの方法、指導方法など
- ・SGDを繰り返し経験したことで、現在タスクフォースの役割を行えていると思う
- ・SGDを行うにあたり自分が学生側を経験していることで、指導しやすかった
- ・SGDを自分自身が経験することで、SGDの進行に役立てることができた。
- ・WS後、まだ実習担当をしていません
- ・あまり役に立っていない。
- ・ある程度、カリキュラムに従い実務実習が行えた。
- ・ある程度客観的な評価をすることができた。
- ・いろんな学生がいるので、理解度を考えたり、教える側の姿勢みたいなもの考えることができた
- ・カリキュラムそれぞれの要素の繋がりと筋道の立て方
- ・カリキュラムに応じて、実践・ディスカッション・教育・自己学習などに分けることができた
- ・カリキュラムの作成
- ・カリキュラムの作成全般
- ・カリキュラムの中に“評価”も入っていることを学んだ
- ・カリキュラムの定義が理解できた。
- ・カリキュラムは教える項目だけでなく、より具体的な計画を立てることが必要である、という意味を理解できた。
- ・カリキュラムプランニングについて学べたことは実習生を受け入れる上で大変必要なことと思うし、実習生と過ごす際には常に頭の片隅に意識するようにしている。
- ・カリキュラムを作成手順について。
- ・カリキュラムを網羅するように実習させることの大変さに目が覚めた。
- ・カリキュラム構築の考え方、実務実習の目的、位置づけを理解できたことが、実習を進めていく上で役に立っていると考えている。
- ・がん性疼痛治療に関する症例検討を企画するうえで参考になった。
- ・グループディスカッションの進め方
- ・グループディスカッションの進行
- ・コアカリキュラムの中の用語の理解
- ・コアカリキュラムの内容と用語の意味
- ・コアカリキュラムの内容の理解に役立った
- ・コアカリキュラムの理解には役だった
- ・コアカリの理解と評価
- ・スケジュールアップの考え方がわかった
- ・スケジュールの立て方
- ・スケジュール作成を詳細に立案できた。
- ・スケジュール作成時の時間調整
- ・スモールグループディスカッション
- ・スモールグループディスカッションを行なうこと
- ・スモールグループディスカッション等の方法を学び、実際に活用できた
- ・チーム医療を行ううえでの委員会等のディスカッション
- ・チーム医療を行ううえでの委員会等のディスカッション
- ・ディスカッションすることで、各自を尊重し、かつ周知できる。
- ・ディスカッションの進め方
- ・どのようにカリキュラムができていくか理解することで、学生へのフィードバックの仕方がわかった。
- ・どのようにカリキュラムを作成すればよいか手順を理解することができた。
- ・どのように組み立てていくか理解できた。
- ・ひとつの実習内容でどのようなことが学べるかが整理できること
- ・プランニングに対する考え方
- ・プランニングの基本的な考え方が理解でき、作成時に役立った。
- ・プランニングの基本理念、組み立て方について。
- ・プランニングの重要性が理解できた
- ・プランニングの大切さ、目標を達成した上でさらなる目標にすすむ意義。
- ・まだ直接受け持たないので何とも申し上げられませんが、細かい問題点を分類分けして根本の原因と解決策を重要度ごとに分ける考え方はきっと役に立つはずです。
- ・モデルコアカリキュラムの基本的な考え方が理解できた
- ・ワークショップから時間も経ち、学習した事をあまり覚えていなかった。実務にあまり生かせず残念です。
- ・ワークの内容というより、人間は一人一人異なるのだという再認識を得たこと。
- ・意識付けになった
- ・医療現場全体を見渡せる広い視野を学生に学ばせるにはどうすればよいか、を考えるきっかけを作ってくれた。
- ・院内実習テキストの作成
- ・改めて教育に関して学ぶ機会を得て、考え方が役に立った。
- ・開始当初漠然とした中で、カリキュラムの成り立ちがわかった
- ・各目標に対する方略の立て方や評価の方法

- ・ 学ぶ事の具体的な行動目標のイメージ
- ・ 学ぶ側に立った視点で計画をたてる
- ・ 学習すべき内容の量や質について
- ・ 学習の目的を考えながら進むことができた。
- ・ 学習者を中心としたカリキュラムの立案
- ・ 学習終了時に期待した成果が得られているかを確認できるようになった。
- ・ 学習内容を整理することが出来た。
- ・ 学習方略について
- ・ 学生が行っているSGDを体験できた。
- ・ 学生が自主的に学ぶためにどうしたらよいかを基本にしました
- ・ 学生さんを指導する時に、順序を考えながら説明することができた。
- ・ 学生に実習させるために、普段何気なく行っている業務を見直す機会になりました。
- ・ 学生に実習前に具体的行動目標を提示することが出来た。
- ・ 学生に説明する内容に説得力が増す。
- ・ 学生の持つてくるカリキュラムに関心を持つようになった
- ・ 学生の到達度に応じてプランを立てていける。
- ・ 学生の理解度から指導内容・指導方法を修正した。
- ・ 学生を指導する上での方法
- ・ 学生向けではないが、実際カリキュラムを作成する機会があったため、WSの経験が役立った。
- ・ 学生実習を見学型にするより参加型を重視する点
- ・ 技術等をできる限り効率的に学び取ってもらうためのプランニング方法が役立った。
- ・ 共に学ぶ事の大切さ 一方的な指導にならない様にしている
- ・ 教えたことと、理解できたこととは別だということ
- ・ 教えるだけでなく、答えを導き出させるという指導が大切であることがよく分かった。
- ・ 教える道筋を勉強できた。
- ・ 教育する側としての心構えができた
- ・ 教育する側としての心構えができた。
- ・ 教育とは、教育者中心ではなく、学習者の学習を支援することを理解した。
- ・ 教育におけるカリキュラム作成の重要性がよく理解できた。また、現場でカリキュラムを適切に実行していくことの責任を認識できた。
- ・ 教育の原理と方法
- ・ 教育や指導の偏りを少なくできる。
- ・ 教育手法が実際に行ってみることで身に付いた
- ・ 教授錯覚にならないよう心がけた。
- ・ 教授錯覚を考慮してプランニングを行う。SGD を適宜実施する。GIO・SBOs・LS の概念。教育の定義。
- ・ 具体的なプランニングのたてかた
- ・ 具体的方略の作成に役立った
- ・ 形成的評価を行うことの意義
- ・ 形成的評価を行なうため、項目コマ数の設定に役立った
- ・ 系統立てて指導することができた。
- ・ 経験を参考に当院用にカスタマイズできた
- ・ 現在、大学でどのような教育がなされているか把握できた。
- ・ 個々のSBOsを相互に関連付けて方略を検討する
- ・ 効果的に形成的評価を行うことで、学習者のモチベーションが高まり、学習効率が上がった。また、カリキュラムの見直しに役立った。
- ・ 考えるために必要な手法について
- ・ 考え方と教え方学び方について
- ・ 今 WS 受講後は、今年の漠然とコアカリに準じ埋めるのでは無く、深く考慮し実習カリキュラムを作成した。
- ・ 今日やることに示せる
- ・ 最終目標は何なのかを意識しながら課題を考えるのに役に立っている
- ・ 昨年度の受け入れ病院から、カリキュラムをいただき、当院における実習の参考にしたので、あまり役に立っていません
- ・ 指導する順番や組み立て方が大変役立っています。
- ・ 指導する範囲、内容が理解できた
- ・ 指導にあたる薬剤師が学生をどのように教育していくかを標準化できた
- ・ 指導計画作成時に利用
- ・ 指導者の意識の重要性を再認識させられたこと
- ・ 指導方法
- ・ 指導方法
- ・ 指導方法の組み立て方、時間内に答えを導き出させるための教え方、リーダーとは何をすべきか(させるべきか)
- ・ 指導薬剤師としての心構えと実習を進める準備方法。
- ・ 資料の取り揃える準備が大切なことの再認識
- ・ 事前準備が円滑に行うことができた
- ・ 時間割作成の考え方
- ・ 自らが目標設定をして目標に向かって頑張り、指導者はそれをサポートするというのを再確認できたこと。
- ・ 自己の担当する「病院調剤業務の全体の流れ」や「医療安全」、「医療人としての薬剤師」において、SBOsに対する具体的な指導方法が明確になった。
- ・ 自施設における実際の指導計画を作成するにあたって役に立った。
- ・ 自分たちも目標や方略の意味を理解することで、指導や評価がやりやすかった。
- ・ 自分で、目標を設定してから、内容を決め、それを評価することになるので、より能動的に活動できた。
- ・ 自分の施設に合うカリキュラムを組む際に役に立った。
- ・ 実際にカリキュラムを考える際の考え方として役立ることが出来た。
- ・ 実際にカリキュラムを組んだことは殆どなかったが、概念を知る上では重要と考える
- ・ 実際に指導するとき利用することができた。
- ・ 実際に実習カリキュラムを組むときのイメージがつかみやすかった。
- ・ 実際のカリキュラムの背景が読み取れるようになった。
- ・ 実習に際し、カリキュラムプランニングを意識するようになった
- ・ 実習の一般目標、行動目標が明確になった
- ・ 実習の方法について、目的、方略など整理して考えることができ、計画の立案に役立っていると思われる。
- ・ 実習の目的、方法、評価において参考とした
- ・ 実習を行う上で、プランニングの必要性を感じる事ができた。
- ・ 実習計画を示すことで学生は学習の計画を立てやすかったと思います。
- ・ 実習項目が抜けることなく指導できた。何を指導すれば良いかが明確になった。
- ・ 実習項目に明確な目標を設定することで、それを達成するための方略や評価方法も明確になった。
- ・ 実習項目の目標点の設定やその手法をある程度理解の

- 上、指導に当たることができた。
- ・ 実習指導の考え方
 - ・ 実習生が積極的に実習が行えるようなスケジュールを目指した
 - ・ 実習生に目標を持たせて参加型の実習ができました。
 - ・ 実習生の到達目標を指導者が設定し、他の薬局スタッフとコミュニケーションを取りながら方略を考える点
 - ・ 実習前にカリキュラム作成の重要性が理解できた。
 - ・ 実習中にSGDを取り入れることにより学生への理解を効率よく高められることができたと思う。
 - ・ 実習内容に偏りが無かったと思われる。
 - ・ 実習内容を講義形式から体験型学習への変更
 - ・ 実務において行う機会の少ない薬物中毒対応や TDM についてのカリキュラムの組み方
 - ・ 実務にそった具体的な実習項目を設定することが重要であることがわかった。
 - ・ 実務実習で直接的に役立つことではないが講義を受けておくことは重要だと思う
 - ・ 実務実習にコアカリキュラムの理解に役立った
 - ・ 実務実習の3か月の予定を組みこむ時に利用
 - ・ 実務実習のスケジュールを作成する時
 - ・ 実務実習の計画を立てること
 - ・ 実務実習の計画を立案するのに役に立った。
 - ・ 実務実習の指導者となっていないため、学生を指導することがない為。
 - ・ 実務実習モデル・コアカリキュラムに対し、スムーズにとりかかることができた。
 - ・ 実務実習を担当後にワークショップを受講したため、実際にはまだ活用できていません。
 - ・ 実務実習指導者用テキストを作成するに当たり役立った。
 - ・ 主に実務実習指導要綱に基づいて行なっているが、それを理解するために役に立った。
 - ・ 受け入れ前に実習カリキュラムを作成する際に役立った。(但し、転勤前の話で当院に当てはまるわけではない。)
 - ・ 従来、講義中心に行っていたが、行動目標で実習させることを学んだ
 - ・ 従来の見学型の実習との違いを認識出来た
 - ・ 従来の受身型ではなく参加型の実習が医療人としての薬学教育に重要であると話された事
 - ・ 常に自分の指導方法で学生が理解されているか確認できる
 - ・ 新人教育スケジュール作成
 - ・ 正直以前はカリキュラムや SBO をあまり理解しておらず、軽視していた。
 - ・ 前年度のカリキュラム履修後に学生のGIO評価を行った際、種々の反省点が生じた。今年度の行動目標SBOsを考えなおす事ができたと思う。
 - ・ 全体の流れの中での位置付けを理解できる。
 - ・ 全体的なイメージがわいた点
 - ・ 体験させることの大切さを学んだことが役に立ちました。
 - ・ 大学の時に教育実習を受講していたのでそれとあわせて役に立ったが、ワークショップのみでも有意義であると思う。
 - ・ 大学教育で望んでいる教育理念や方略・プランニングが理解できた。
 - ・ 達成目標と当院で求めている達成目標の摺合せに役立った
 - ・ 到達目標に達するためにはどのようにしたら良いか考えるようになった。
 - ・ 特に、薬剤管理指導のロールプレイングを行う際に、目的を持って、必要事項に焦点を当てた実習を行うことができた
 - ・ 内容をその都度再確認できる。
 - ・ 能動的学習の重要性
 - ・ 必要な実習項目として参考程度に役立った
 - ・ 表面的な意味ではなく、いかに学生とともに医療を構築していくかを考えるきっかけとなった
 - ・ 評価がむずかしい。施設に何人も評価者がいるときどうかが問題。
 - ・ 評価だけでなくフィードバックが重要であることを意識することができている。
 - ・ 評価の仕方が参考になった
 - ・ 病院、薬局、大学の考え方、やり方など参考になった
 - ・ 病院実習の所属部署でのカリキュラム作成に覆いに役立った。。
 - ・ 病院全体での教育の必要性を再認識した
 - ・ 病棟実習計画が立てやすくなったと思います。
 - ・ 方略に記載されていることを基に、要求している根拠を推測することが出来るようになった。
 - ・ 方略の考え方。
 - ・ 目的が何かを明確にすることで、スケジュールが組みやすくなりました。そのような考え方を教えて頂いたのだと思います
 - ・ 目標、SBOsの意味と具体的な作製方法が理解できた。
 - ・ 目標、方略、評価の流れを学びプランニングしやすかった。
 - ・ 目標、方略、評価をカリキュラムに入れる、組み立てることで教育内容を充実したものにできました。
 - ・ 目標⇒方略⇒評価 という流れ
 - ・ 目標・方略・評価の3要素からなるカリキュラムプランニングは学習者の特定の目標に達するための学習が可能となる
 - ・ 目標・方略・評価の理解
 - ・ 目標・方略・評価を明確にすることで、日常業務に左右されずぎに系統だった実習が出来る。
 - ・ 目標に向かっていく学生を、我々はサポートすること。
 - ・ 目標の設定
 - ・ 目標設定について
 - ・ 問題解決方法
 - ・ 問題抽出をKJ法で行い共通視野で意見交換し、カリキュラムを作成した。
 - ・ 薬学教育モデル・コアカリキュラムの読み方が分かった
 - ・ 薬剤師の指導法に利用
 - ・ 優先順位のつけ方
 - ・ 予定表作成で利用できた
 - ・ 用語理解
- 【記述 02】
2. ワークショップでの薬学教育に関する実施内容について
- (1)カリキュラムプランニングについて
- ④カリキュラムプランニングについて経験したことを実務実習を行う上で活用しましたか。
- 活用された点が具体的にあれば、お書きください。
- ・ 1日単位でなく、決められた日数の範囲でカリキュラムを作成するようになった
 - ・ KJ法

- ・ KJ 法, SGD
- ・ KJ 法によるグループ討議、発表
- ・ KJ法による問題点の抽出
- ・ KJ法の手法
- ・ KJ法の手法。学生の Small Group Discussion 時のアドバイスの出し方、関わり方。
- ・ KJ 法を使って SGD を行い、医療人として必要な資質を考えてもらった。
- ・ KJ法を用いて、「医療における病院薬剤師とは」というタイトルで学生とスタッフでグループディスカッションを行なった。
- ・ KJ法を用いて、「地域における病院薬剤師について」というタイトルで学生とスタッフでグループディスカッションを行なった。
- ・ KJ 法を用いて学生とスタッフでグループディスカッションをした。
- ・ SBOs にそって実習日程表を作成した
- ・ SGD
- ・ SGD
- ・ SGD など
- ・ SGD などの実践に活用できました。
- ・ SGDにおいて活用
- ・ SGDの行い方
- ・ SGD の進め方
- ・ SGD の進行
- ・ SGD の進行
- ・ SGD を少し導入し学生に考えさせる時間を持たた。
- ・ SGD 時の進め方など
- ・ WS 後、まだ実習担当していません
- ・ カリキュラムにのみ捕われることなく、学生の理解度を確認しながら進めることが出来た
- ・ カリキュラムに基づいた実習指導の手順を考える際に役だった
- ・ カリキュラムのプランニングは他の薬剤師が行ったため、実際のプランニングは行っていません
- ・ カリキュラムの改善を行う際、KJ 法・二次元展開法を使った。
- ・ カリキュラムの作成
- ・ カリキュラムの作成全般
- ・ カリキュラムの立案・要素について大まかではあるが理解が深まった
- ・ カリキュラムプランニングに沿って指導した。
- ・ カリキュラムを作成し、具体的に目標値を立てて職員全員で担当できるようにした。
- ・ カリキュラム作成
- ・ カリキュラム作成時に参考にした。
- ・ がん性疼痛治療に関する症例検討を企画するうえで参考になった。
- ・ グループディスカッションを行う際に活用している。
- ・ コアカリキュラムを重視し、目標を到達できるよう実習を行った。
- ・ コアカリにないプランの立案に役立った。
- ・ この実習に参加させて頂いて、当院の内規に合わせたチェックリストができた
- ・ スケジュールの立て方
- ・ スケジュール作成。
- ・ スモールグループディスカッション
- ・ スモールグループディスカッションに活用
- ・ スモールグループディスカッションの方法について理解でき、実施した。学生の理解度の確認が行いやすくなった。
- ・ チーム医療について K-J 法を用いて討議した。
- ・ ディスカッション
- ・ ディスカッション等で一部活用した。
- ・ できるだけ実際の業務にかかわってもらうように行った
- ・ ひとつの実習内容でどのようなことが学べるかが整理できること
- ・ フィードバック法、スモールグループディスカッション
- ・ より具体的な内容を中心に実習を行うことができた
- ・ 違う観点から実習方法を見直すきっかけになった。
- ・ 医療倫理に関して、最初と最後に配置して実習での変化が見られるようにした
- ・ 一度理解すれば簡単なことでも理解するまでは困難であり指導者もそれに気がつきにくい というのを気にかけてます。
- ・ 一般目標と行動目標を明確にすることができる。
- ・ 院内実習テキストの作成
- ・ 演習、課題等の作成
- ・ 過程の区切り
- ・ 各目標に対する方略の立て方や評価の方法
- ・ 覚えていません。
- ・ 学習の目的を明確にして計画をたてた。
- ・ 学習者の性格により方略(資源)を変えました。
- ・ 学習方法に SGD や RP を取り入れ、学生に参加型の実習を組み込んだ。
- ・ 学生に見学・実習、説明・演習、まとめと解説、実習書の作成と具体的に提示できた。
- ・ 学生に考えさせる時間を多く設けた
- ・ 学生に自ら考え、調べるような指導を心がけた
- ・ 学生に対するフィードバックの方法
- ・ 学生の学び方を学んだ事で学生の習得のさせ方を指導者側からの一方的なものにならないように配慮した。
- ・ 学生の実習日報をチェックする上で、「目標」や「SBOs」等に注目できた。
- ・ 学生の能力にあわせたプラン計画
- ・ 学生の理解力に合わせてプランニングすること
- ・ 学生を教えるときに、実務実習全体のどこに位置づけた事を教えているか、という意識を持たた。
- ・ 学生を指導する上での方法
- ・ 患者さん・他の医療スタッフとの触れ合いやカルテの閲覧等ができる様にする為に病棟業務を多くしてしている。
- ・ 基礎実習の項目に取り入れた。
- ・ 技術等をできる限り効率的に学び取ってもらうためのプランニング方法が役立った。
- ・ 技能、態度・習慣について評価表を用いて形成的評価を行った。
- ・ 具体的な方略の作成
- ・ 形成的な教育ができた。
- ・ 経験を具体的な事例を列挙し、目標につなげて理解しやすくした。
- ・ 計画書作成において
- ・ 効果的な学習方法の立案
- ・ 抗癌剤調製(外来)について
- ・ 講義中心ではなく、実務の時間を多くした。
- ・ 今年度Ⅱ期は、当院 6 週間のため、集約し実習生のニーズに応えるようカリキュラムを作成した。
- ・ 指導するだけでなく、評価表で評価を行うようになった
- ・ 指導する内容が自分なりに整理できた
- ・ 指導を行いながら、方略について確認を行いながらSBOs

- を行ったが、なかなかこちらの思うようなGIOは得られなかった。
- ・ 指導者側だけでなく、学生の要望や大学の期待も聞きだし、カリキュラムを組むようにしました。
 - ・ 指導薬剤師が学生を指導・評価するだけでなく、指導薬剤師自身も自己評価を行った。
 - ・ 指導要綱を作成した。
 - ・ 資源
 - ・ 時間の配分
 - ・ 時間割
 - ・ 時間数、手法と目標到達の考え方
 - ・ 時間数、手法と目標到達の考え方
 - ・ 自分で考える時間の設定、SDを行う
 - ・ 実際に指導した内容に抜けがないか、プランニングを用いてチェックを行っています。
 - ・ 実際のプランニングは現場の状況を把握しなければならず、大変だった。
 - ・ 実際の時間割作成
 - ・ 実際の実習プログラムを作成する際に参考にした。
 - ・ 実際の実習内容にカリキュラムが網羅できるように配慮した。
 - ・ 実際の実習予定を組む時
 - ・ 実習にSGDを取り入れた
 - ・ 実習期間の中でやるべきことが明確になっており、活用した。
 - ・ 実習計画を立案する際に参考にすることができた。
 - ・ 実習項目を設定する際の方略と評価方法の選定
 - ・ 実習場所の設定や、コマ割など。
 - ・ 実習生が関心をもって臨床実習に挑めるよう効果的な学習方略の立案を行った。
 - ・ 実習生の実力差を埋めるために、各個人ごとにプランを立てた
 - ・ 実習内容の予定・流れのチェック
 - ・ 実習内容をそれぞれ知識、技能、態度の習得に分類・整理してカリキュラムを計画した
 - ・ 実習日程やスケジュールの時間配分作成時に参考になった。
 - ・ 実務に合わせた実習項目を設定した。
 - ・ 実務実習で学んだことを中心に評価をしていった。
 - ・ 実務実習において学生や大学が期待していることが分かるので、それに沿うように計画を立てることができた。
 - ・ 実務実習のスケジュール作成
 - ・ 実務実習の教育手順・体系を構築した
 - ・ 実務実習の計画を立てること
 - ・ 実務実習の指導者となっていないため、学生を指導することがない為。
 - ・ 実務実習を担当後にワークショップを受講したため、実際にはまだ活用できていません。
 - ・ 所属部署でのカリキュラムを作成に携わった。
 - ・ 常に目標を把握することに努め、モチベーションを保てるよう工夫している。
 - ・ 正確には活用できなかった。薬剤師に対し受け入れ人数が多く、実習生の配置場所はローテーションするしかない。全員同じ内容で指導は行うが、順序が統一できずプランニングが困難であった。
 - ・ 積極的に行えるような工夫
 - ・ 多方向より学生にアプローチできる。
 - ・ 体験できる実習を取り入れた。
 - ・ 体験できる実習を取り入れた。
- ・ 大きな目標を達成するため、その過程を細かく分け、階段を登るように理解させていく
 - ・ 大学などからの配布資料の理解と自施設での対応のすり合わせ
 - ・ 大枠の流れ。
 - ・ 担当分野の体験型学習への変更
 - ・ 調剤室での2週間の実習スケジュールを、調剤室スタッフによるSGDで実際に作成した。
 - ・ 適切な評価方法の設定
 - ・ 適切な評価方法の設定時に、実務実習指導者間で共通の理解があったため協議がスムーズであった
 - ・ 当院あったカリキュラムを作成おおむね実行できた。
 - ・ 当院でのカリキュラムプランを4年生実習から作成してみた
 - ・ 当院用のスケジュール表作成に活用した。
 - ・ 当施設における具体的な指導スケジュールの作成
 - ・ 到達目標とそれに対応する学習方略との関係、そしてカリキュラムの組み方を学ぶことが出来た。
 - ・ 独自のカリキュラムを作製する際に活用しました
 - ・ 内容の検討や資料の作成
 - ・ 内容を確認することで実習中にその周辺や関連箇所も併せて研修を組むことができた。
 - ・ 日々のスケジュール作成時に活用できた。
 - ・ 評価の際
 - ・ 評価の上で、机上・口頭試験を重視した。
 - ・ 評価の方法がいろいろあっていいことを活用した。
 - ・ 評価方法を明確にしたのちにプランニングを実施できるようになった。
 - ・ 病院と保険薬局との違い
 - ・ 病院実務実習ワークブックに沿って、実習を進めているが、当院用にアレンジする場合のもとにした。
 - ・ 病院長・学長の承認を得て、薬剤科のみならず病院全体で教育に参加した
 - ・ 服薬指導に行く前のロールプレイング、SGD。
 - ・ 複数のSBOsを効率よく行うために事前整理ができた
 - ・ 平成20年頃から準備として、当院での実習内容を組み立てるときに活用した。
 - ・ 方略に従った実習項目を準備した
 - ・ 目的、方略、評価の3要素から成る教育活動の計画書であり、実務実習の時間配分ではない点に注目できた
 - ・ 目的を持って実習に望むような方向付けを行った。
 - ・ 目標と方略と評価を具体的に実習生に記載させ、問題点を評価しプランの修正をかけている
 - ・ 目標を達成するための方法(方略)の工夫
 - ・ 目標設定、教育資源の利用
 - ・ 薬学教育モデル・コアカリキュラムにない実習のカリキュラム作成で活用した
 - ・ 薬学生の実習カリキュラムを作成する際に活用できた
 - ・ 薬剤師の医療倫理のスタンスをまなんでいたため、その点を念頭において指導をおこなった。
- 【記述03】
2. ワークショップでの薬学教育に関する実施内容について
 - (2) 学習目標について
 - ③ 学習目標の作成について経験したことは実務実習を行う上で役に立ちましたか。役に立った点が具体的にあれば、お書きください。

- ・ 2.5 か月の全体的カリキュラム作成において目標を具体的に設定することができた
- ・ GIO,LS,SBOsについて理解できた。
- ・ GIO、LS、SBOsの意味と考え方
- ・ GIO、SBOsの関連が理解できたので、バランスよく実習することができた
- ・ GIOとSBOsの関係が理解できた
- ・ GIOに対するSBOsを設定することで、指導するポイントが明確になり実習を進めやすい
- ・ GIOに達成するためにどのようなSBOを修得すれば良いのか、その方法について学習できた。
- ・ GIOの重要性
- ・ GIOを念頭に置きながらSBOsを個々に設定するようになった。
- ・ SBOsがそれぞれGIOに結びついていくことを事例を踏まえて説明できる。関連性の理解の手助けになる。
- ・ SBOsについては追加したい項目が多かった。
- ・ WS後、まだ実習担当をしていません
- ・ カリキュラムをたてる時の順序、評価の目線に。
- ・ カリキュラム作成時に参考にした。
- ・ がん性疼痛治療に関する症例検討を企画するうえで参考になった。
- ・ コアカリキュラムに基づき作成された学習計画は、項目を機械的に並べただけの時間割ではないということを理解できたのが一番だと思う
- ・ コマごとの目標が明確になる
- ・ これだと言う事はないが、目標を作成するに参考になったと思う。
- ・ それぞれのSBOsの目標が具体的に理解でき、実際の実習指導を行う上で参考になった。
- ・ それまでの背中を見せる教育とは異なり、実際にできたことが次に生かせるように考えることができた。
- ・ ただ教えるのではなく、理解させるためにはどうすればいいかという点を私が理解できた
- ・ どのような実務実習を行うかを明確にできた
- ・ どの程度まで実施し、理解を得なければならないのか分かる。
- ・ モデルコアカリキュラムの記述内容がより理解できた。
- ・ ワークショップを受けていない薬剤師に指導目標を示すことが出来た。
- ・ 安全にミキシングが出来るなど、学生目線の目標が立てられた
- ・ 一定の評価基準ができる
- ・ 一般目標と行動目標を組み合わせることで目標が明確となり学習者の行動に価値のあるプロセスが明示された
- ・ 一般目標を示すことで病院実習で行うことがわかりやすかったのではないかと思います。
- ・ 院内実習テキストの作成
- ・ 化学療法委員会・緩和ケア委員会の目標・目的の立案
- ・ 化学療法委員会・緩和ケア委員会の目標・目的の立案
- ・ 何を学んでもらうかが明確になった。
- ・ 何を学習するか明確になった
- ・ 何を知ってもらいたいかを明確にすることで、事前に作成する資料の内容も明確化できる。
- ・ 課題を考える参考にしました。
- ・ 学んでほしい事項に対し、目標を適切に作成できれば、学生の目標への意欲が高まる。
- ・ 学習者の目線で目標を作成することができた。
- ・ 学習目標がどうやってできたのか少し理解できた。
- ・ 学習目標に沿った指導の在り方を考えるきっかけとなった。
- ・ 学習目標に到達するように実習させることの大変さに目が覚めた。
- ・ 学習目標の作成が作りやすく、また評価が明確になった
- ・ 学習目標の詳細説明が可能であった
- ・ 学習目標の設定方法
- ・ 学習目標や評価について情報の共有化が図れた
- ・ 学習目標を意識して考えるようになった。
- ・ 学習目標を明確にすることで、実習内容が明確になり、到達度も上がった。
- ・ 学習目標を利用することで、行う内容を具体化することが可能となった。
- ・ 学生が学ぼうとする意欲を引き出す方法など
- ・ 学生が学習目標を作成するのに適切な助言を行うことができた
- ・ 学生にどこまでを求めるとの設定。
- ・ 学生に学んでもらいたいことをイメージできた。
- ・ 学生に具体的に何を体験・経験させて行くか。
- ・ 学生に実際の目標、到達点で評価出来た
- ・ 学生に目標を持たせ、それを意識して日々取り組めるように指導している。
- ・ 学生のモチベーション向上に役立つ。
- ・ 学生の知識や理解度に応じて目標のレベルを設定することに役立った。
- ・ 学生へ指導を系統的に行うことができた。
- ・ 学生を指導する上で、具体的な目標を提示できた。
- ・ 学生参加型にすることの重要性
- ・ 学生自身の学習目標を訊くことで、実習内容に反映させることを検討した。
- ・ 共通の項目以外の内容を実習項目に設定を行う時。
- ・ 教育目標を設定するには、社会と学生のニーズを反映させること。また、両者のバランスが必要なこと。
- ・ 業務を行う際に実習の内容を明確にすることができた。
- ・ 具体的な目標設定をするのに役立った。
- ・ 具体的に目標設定がされることにより可視化され分かりやすくなった。
- ・ 形成的な評価を意識することができた。
- ・ 個々の学生にあった到達目標を設定していくこと。
- ・ 個々の目標を比較評価する上で、複数の実習生がいれば、もっと役に立つと思いますが、、
- ・ 効率的に学習するための方法を学ぶ必要性が理解できた。
- ・ 考え方、言葉の使い方を知りました。
- ・ 行動目標としての知識、技能、態度の3分野をうまく組み入れることができた
- ・ 行動目標となっているので、確認しやすくなった
- ・ 行動目標の考え方
- ・ 行動目標の設定方法について
- ・ 行動目標を設定することにより、具体的な指導方法を考えることができた
- ・ 今までの実習では、各薬剤師に指導を任せていたが、指導内容に個人差が生じていた。目標を立てることにより、その個人差の幅が少なくなった。
- ・ 今まで漠然とおこなってきたものが、目標をたてることによって統一化された気がします。
- ・ 今まで目標を立てる時に「指導者は・・・」という目標を立てていたが、「学習者が・・・」という目標を立てるべきというこ

とを学んだ

- ・最低限何を実習させれば良いか明確となっているため
- ・細かな目標を達成させることにより大きな目標を達成させる点
- ・作成していく過程で不明瞭な部分が少しははっきりしてきた
- ・指導者が目標を設定するわけではないこと
- ・指導者として実務実習テキストを理解するのに役に立った
- ・指導者側の指導内容および評価に活用できた
- ・指導者側の目標を設定する必要性を考える機会となった点
- ・指導内容を明確に提示することができた
- ・実際行う時に参考にした
- ・実習で学生が効率よく学習する為に、良く練られた教育目標であることがわかり、今後は積極的に利用したい。
- ・実習に関して、現場での実習内容とのひも付けをする際に役に立った。
- ・実習に際し、明確な目標を意識するようになった。
- ・実習に際して学生に目的意識をもってもらうことが大事だと分かり実践している。
- ・実習の必要性の動機づけの為の、業務の重要性の再認識が出来た。
- ・実習の目標設定に参考になった。
- ・実習の要点を絞れた。
- ・実習を指導するにあたって渡された学習目標の意図をよく理解することができた。
- ・実習を受けている学生達に到達目標を自覚させることができる。
- ・実習を進めていく段階で、どのように目標を立て、また、変更していけばよいのかが
- ・実習項目を当院の業務にあてはめ、具体化すると共に、評価に際しポイントを絞って評価項目を設定できた
- ・実習施設の実習内容に合わせた学習目標を作成することが重要であることを学びました。
- ・実習生の学習の方向付けをするうえで役に立った
- ・実習生の学習の方向付けをするうえで役に立った
- ・実習生の学習の方向付けをするうえで役に立った
- ・実習生の達成目標
- ・実習生の達成目標
- ・実習全体のイメージを掴むことができた
- ・実習部署ごとに学習目標が重要であることを意識するようになった。
- ・実務実習で掲げる到達目標について現場との乖離はあるが、目標を立てて努力することに意味を感じる。
- ・実務実習のコアカリキュラムの理解に役立った。
- ・実務実習の指導者となっていないため、学生を指導することがない為。
- ・実務実習を行う上で、GIOとSBOsの関連がよく理解でき、目標をたてやすくなった。
- ・実務実習を担当後にワークショップを受講したため、実際にはまだ活用できていません。
- ・主語を学生にすること。
- ・充実した実習への高めの目標を設定するも、学生の温度差・能力差があり上手く進めない点がみられた。
- ・出来るだけ、他の病院と遜色ないように実習を受けてもらう指針となった。
- ・上記③同様
- ・職場の職員にも伝え教育意識を高めたこと
- ・設定した学習目標について、できるだけ「実施することが

- できる」に近づける教育をすることが大事だとわかった。
- ・全体を網羅的に把握でき、実習進捗の確認が容易であった。
- ・多角面から目標にアプローチすることにより、何が必要なのかを気付くことが出来た。
- ・体験してのみわかる点が多かった。
- ・態度の評価
- ・大きな目標を、具体的な学習目標に還元する方法を取得できた。
- ・達成すべき目標が明確になるため、何を学習させるかが明確になる
- ・段階を作っていくこと
- ・漠然としすぎだとその場だけの指導になってしまうのではらつきがでてしまう
- ・病院実習中に何が出来るようになりたいか具体的に考えてもらった。
- ・明確な評価のできる目標を立てることで実際の場面でも使える
- ・明確な目標を設定(特に適切な動詞を設定)することで、何を学ぶのかがはっきりした。
- ・目的や意図について理解したうえで実習をおこなうことができた点。
- ・目標、SBOsの意味と具体的な作製方法が理解できた。
- ・目標があることにより
- ・目標となるものが、既にあったので、最低限の内容は確保できたと思う。
- ・目標には一般目標と行動目標があり、すべての行動目標が出来る様にれば一般目標に到達するという関係
- ・目標にポイントを設定すること
- ・目標に向けて形成的評価の活用が実用的であった
- ・目標の意図を考慮し学生を評価することができた
- ・目標の作成手順
- ・目標の設定の仕方
- ・目標の明確化が、方略、評価の基本のなることが理解できた
- ・目標をたてたほうがモチベーションがあがる。
- ・目標を学生と教える側の両方が考えることで学習内容が一致したと思う
- ・目標を設け指導
- ・目標を設定することで、複数人数指導者がいても共通の認識を持てる、大学側が学生に身につけて欲しいことが明確に分かる。
- ・目標を設定することで何を教育するかを指導者が理解・整理できた
- ・目標を設定する事で、教える事の全体像が見えるようになった。
- ・目標を達成するための実習内容を検討する上で役立った
- ・目標を明確に意識して設定することが出来るようになったと思う。
- ・目標を明確に表現する際に役に立った。
- ・目標記述のための動詞に、「理解する」など測定しにくいものは適さないということ。
- ・目標作成を経験したことで、コアカリの目標の成り立ちの意味を深く理解できた。
- ・目標設定では、学習目標に達するためにどのような学習方法を取り入れれば良いか。
- ・目標設定を明確にすることができた
- ・目標設定を明文化することに意義が理解できた
- ・目標達成のために必要な学習方法を選択する際に WS で

の体験が参考になった

- ・ 目標達成ポイントを明確にすることで、指導の内容が均一化した。
- ・ 薬学教育モデル・コアカリキュラムの読み方が分かった
- ・ 薬学部と目標設定に関する共通認識を持てる
- ・ 薬学部の理念、薬学教育の目標が理解できた
- ・ 薬剤師が日々の業務として出来て欲しいことと、学習目標として設定することの違いを再認識することが出来たから。

【記述 04】

2. ワークショップでの薬学教育に関する実施内容について

(2) 学習目標について

④? 学習目標の作成について経験したことを実務実習を行う上で活用しましたか。

活用された点が具体的にあれば、お書きください。

- ・ 5つの「学習目標のもつべき性格」をふまえながら学生に説明している
- ・ GIO,LS,SBOsに基づいた計画を立案できた
- ・ GIO,LS,SBOsに基づいた実習内容を計画・立案した
- ・ SBOを毎日のカリキュラムに取り込んで実施しました。
- ・ WSを受けずに指導をしている薬剤師の評価を学習目標と照らし合わせて、必要に応じて再評価した。
- ・ WS後、まだ実習担当していません
- ・ あらかじめ学生にやるべきことを理解させるのに役立った。
- ・ カリキュラム作成時に参考にした。
- ・ がん性疼痛治療に関する症例検討を企画するうえで参考になった。
- ・ コアカリキュラムに記載されている事項を踏まえて実務に即したテキストを作成した。
- ・ コアカリでは、大まかすぎる目標を実務実習用に細分化して目標を立てた時に活用した。
- ・ コアカリのSBOsだけではなく、担当時間内に何を学んで欲しいかを指導者側が意識できるようになった。
- ・ これだと言う事はないが、活用していた部分はあると思う。
- ・ それを基に当院の評価基準学生実習マニュアル作成した。
- ・ チェックリストの作成
- ・ どこまで実習により知識・技能を学べば良いのか参考になった。
- ・ どのような実務実習を行うかを明確にできた
- ・ どの部分を重点に学びたいのか学生の立場になって、学習目標を組み立てることもある。
- ・ プレテストの実施とポストテストを実施し学習目標と学習成果の尺度としている。(評価も含む)
- ・ レポート作成してもらって当たって到達目標に沿った形で提出してもらい評価を行った。レポートの最初に到達目標のLSを記載してもらい作成したので、各目標に対しての理解度を把握することができ、評価をすることができた。
- ・ レポート作成の課題を決めるときに活用しました。
- ・ 一般目標と行動目標を明確にすることによって指導する側の目標とプロセスがはっきりする。
- ・ 院内スタッフ間でのコミュニケーション、協同行うこと
- ・ 院内マニュアル作成に活用した
- ・ 院内実習テキストの作成
- ・ 何をすべきかが具体的に整理出来た。
- ・ “各実習時間の初めに目標を明確にすることで、学生自身

- ・ 与えられた目標以外の分野の学習計画時に、到達目標を立てることが容易だった
- ・ 理解すべき点を明確にすること
- ・ 臨床では仮想ではないので当然個々に異なる事例、症例になる中で、学習目標が実習生によって違う内容にならないように注意する。

がどこまで理解すべきかを把握できる。

- ・ 他の薬剤師が指導するときも、どこまで説明するか明確にできる。”
- ・ 各部門での研修において、それぞれの目標を設定している
- ・ 学習目標が達成したか否か
- ・ 学習目標のプランニングは他の薬剤師が行ったため、実際のプランニングは行っていません
- ・ 学習目標の設定方法
- ・ 学習目標は、全国共通であり標準的な教育を行うために実務実習の中での通過点と考えて利用した。
- ・ 学習目標を使用して、学生と相互に達成できているか確認しあった。RUNBAに留意した。
- ・ 学生が到達できる学習目標とした。
- ・ 学生にどこまでを求めるかの設定
- ・ 学生に応じた達成目標を設定した
- ・ 学生に過度な期待や目標をもとめなかった。
- ・ 学生に学んでもらいたいことをイメージできた。
- ・ 学生に目標を持たせることにより、学生に飽きや興味の欠落がなくなった
- ・ 学生のモチベーションが高まるような目標を作成する。
- ・ 学生のモチベーション維持
- ・ 学生の関心があることを組み込むようにした
- ・ 学生の習得状況を定期的に評価し、習得の足りない項目(学習目標)をその後フォローするような指導体制をとった。
- ・ 学生指導を系統的に項目を立て、いくつかの方略を指導的立場で考え、学習評価につなぐことができた
- ・ 活用できなければ実習を行う必要がないじゃないですか。
- ・ 基礎学習
- ・ 基礎実習の項目に取り入れた
- ・ 既存の目標で十分でした
- ・ 期日までにインスリン自己注射の指導ができるように指導
- ・ 共通の項目以外の内容を実習を新しく項目設定する時。
- ・ 具体的には実習テキストに沿って実習を行った
- ・ 個別の目標を立てることができた
- ・ 今回、当院で立てた目標は、すべてモデル・コアカリキュラムに含まれており独自に作成しなかった。
- ・ 細かな目標を達成させることにより大きな目標を達成させる点
- ・ 指導ノートを作成する時。
- ・ 指導の内容を自分で考えさせさらにそれを使って実際に患者を指導した
- ・ 指導者側の指導内容および評価に活用できた
- ・ 指導内容を明確にできる
- ・ 施設独自の目標設定に活用した
- ・ 自施設でも目標作成の必要性を認識した。
- ・ 自分の伝えたいことを目標とし、すでにあるものに当てはめた。

- ・実際には実務実習テキストを使用した。
- ・実習カリキュラム作成時、目標に沿ったカリキュラムを立てることが出来、理解度確認も到達目標に沿って行ったため、漏れがなかった。
- ・実習が長期に渡るもので、ともしれば漫然と業務をこなすような実習になりそうなところで、目標を示すことによって実習生に「現在何を達成するためにこの実習をしているか」の方向性を示すことができた。
- ・実習での学習方法を考える時に学習方法の区分が参考になった
- ・実習に際して学生に目的意識をもってもらうことが大事だと分かり実践している。
- ・実習の4週目と8週目に行動目標の評価を行い、不十分な点を残りの実習期間に補完するようにした。
- ・実習の時期で、方法、内容に格差を生じないように到達目標達成のために、質の高い実務実習に心掛けた。
- ・実習は何をするのか、何のために実習をするのかを明確に答えられるように考えるきっかけになった
- ・実習開始時に目標を記載し、中間・終了時に、目標到達について一緒に振り返っている。
- ・実習施設の実習内容に合わせた学習目標を作成することが重要。
- ・実習生に教えるときに、学習目標を作成すると、教える内容が具体化され、教えやすい。
- ・実習生に指導するのに活用
- ・実習生に対し、一般目標と行動目標を具体的に示した
- ・実習内容で方向性の確認をテキストで確認できた
- ・実習内容を立案し、指導方法を考えるうえで、何ができるようにすることが目標なのかを意識しながら取り組めた。
- ・実習日誌の添削時、学生の立てた目標を評価する上で役立つ
- ・実務実習の指導者となっていないため、学生を指導することがない為。
- ・実務実習を行うに当たり、方略に沿った実習計画を立てられた
- ・実務実習を担当後にワークショップを受講したため、実際にはまだ活用できていません。
- ・実務実習指導薬剤師以外の薬剤師にも実習指導の参考となっている
- ・週単位のスケジュールに目標を設定した。
- ・新人教育の到達目標作成
- ・図などテキスト内容を他の職員に伝達講習した。
- ・達成可能な目標値に達成させることを目標としてカリキュラムを作成した。
- ・知るのか行動するのか、作るのかなどの設定。
- ・当院での実務実習でのSBOsの作成
- ・当院で行えない実習の講義に活用した。
- ・独自のSBOsを設定した(例:治験)
- ・日々、目標を立てて実習を行うよう、学生に対する方向づけを行うのに役立った。
- ・発表の場を設ける
- ・必要に応じて、学習者個々にあった目標を作成した。
- ・評価する時の大まかな目安とした
- ・病院独自のSBOsを作成できた
- ・服薬指導を行うに際しても、具体的に取り組む課題を提示することができた。
- ・毎日、実習生にこの知識を活かし、具体的な目標を示すように努力している
- ・目標⇒行動へとつなげて考えることができた

- ・目標が、知識・技能・態度のどれにあたるか分けて設定した。
- ・目標が明確であれば、指導の方向性もおのずから指示される
- ・目標の作成手順
- ・問題の発見・解決方法が具体的に組み立てられた
- ・薬や疾患に関する知識を高めること、調剤技術・コミュニケーション技術を向上させること、薬剤師としての在り方・態度を考えるきっかけを作ることを意識して、目標をたてました。
- ・薬学教育モデル・コアカリキュラムにない実習の学習目標作成で活用した
- ・薬学実務実習はGIO、SBOs共に提示されているため、実習内容に結び付けやすかった。
- ・薬学生の実習カリキュラムを作成する際に活用できた
- ・薬剤管理指導業務において、患者面談を行う際に見学、ロールプレイ、実践、といった段階を踏んで実習を行った。
- ・例えば、実務実習を安全、円滑に行うために医療安全に関する知識、技能、態度の習得。

【記述 05】

2. ワークショップでの薬学教育に関する実施内容について

(3) 学習方略について

- ③ 学習方略の作成について経験したことは実務実習を行う上で役に立ちましたか
活用された点が具体的にあれば、お書きください。

- ・GIO と SBOsを作成、検討し、方略までの関連性について理解できたこと。
- ・SBOs に到達するための色々な学習方法が聞けた。
- ・SBOsの項目が実際の現状と大きくかけ離れている
- ・SBOsの理解を深めるために事前資料の内容を講義、実習やテストな使い分けすることができた。
- ・SGD の意義や手法を学べたこと
- ・SGD の活用
- ・SGD の必要性 Dale の円錐の考え方
- ・SPICES Model が学習方略で望ましいということ、直接的な目的体験が記憶に残りやすいことがわかった。資源について考えた。
- ・WS 後、まだ実習担当していません
- ・あらかじめ資料を準備することの必要性を痛感した。
- ・いろいろな学習方法があることを学び、同じ目標でも学習方法を変えることで、指導する側のマンネリ化を打開することができたと思います。
- ・いろいろな方略があり、特に SGD の取り組みに役だった
- ・カリキュラム作成時に参考にした。
- ・がん性疼痛治療に関する症例検討を企画するうえで参考になった。
- ・スケジュール作成がスムーズに行えた。
- ・スケジュール表に明記し何を学習すべきか明確化した
- ・どのように筋道をたてて指導していけばいいのかが理解できた
- ・どの資源を使って行うのか、どの方法が適しているのか等を考えるのに役に立っている
- ・モデルコアカリキュラムの方略の記述内容がより理解できた。
- ・より具体的に記載することが重要であることが理解でき

- た。
- ・ ロールプレイ
- ・ ロールプレイの活用
- ・ 院内実習テキストの作成
- ・ 何をどの程度、どのような方法で理解を得られるかを考えられる。
- ・ 何を準備し、行っていくかという事を考える必要があることを認識できた。
- ・ 各SBOsに対して実際にどのような学習方法がよいのか考えるきっかけになった。
- ・ 学習者がどの程度のテーマの意味を理解しているかを話しを通して、学習方略の項目を設定できた
- ・ 学習内容を整理できた。
- ・ 学習方法
- ・ 学習方法について、学生が行いやすい状況を作ることができた
- ・ 学習方法の形を理論的に知ることができた
- ・ 学習方法の種類を知り、それらをどの場面で活用するかを考えることができるようになった。
- ・ 学習方法の選択
- ・ 学習方法の選択
- ・ 学習方法や人的・物的資源、時間、場所等を決める上で役立った。
- ・ 学習方法を検討する際に役に立った。
- ・ 学習方略の重要性が理解できたので、なんでも教えれば良いというわけではないことが分かった。
- ・ 学習方略を自分の施設に合うよう組み直した。
- ・ 学習方略を設定することで何をすればよいかが明確になった。
- ・ 学習目標に到達するためにどのように学ぶか、学習方法、人的資源、物的資源、時間などを具体的に考えるのに役立った
- ・ 学生が学習を進めるのにあたり、どうすればよいのか方向性を示唆することができた。
- ・ 学生との認識を共有できたこと
- ・ 学生の学習意欲を向上させるため、可能な限り、実務に即した学習方略を作成した。
- ・ 関連する問題集の利用・作成・実施
- ・ 基礎的なこととして底辺に考えることができた
- ・ 教えることを分類することが可能となった。
- ・ 教育に重要な方略について模擬患者でのロールプレイなど人的・物的資源など細かな項目について必要なことが理解できた
- ・ 具体的な実習方法を考えるのに役立った。
- ・ 具体的には無いが、基礎的なレベルで自然に取り込まれているのだろうと思う。
- ・ 具体的に方略を決めていく点
- ・ 計画を立てる際に、学習方略の設定方法を理解していたので、立てやすかった。
- ・ 見学、ロールプレイを行った
- ・ 限られた期間内で効果的に実習を進めること
- ・ 個々の学生の理解度にあわせ、どのように対処すべきか指針になると思われる。
- ・ 個々の学生の理解度に影響してしまうので、個々の学生の能力にあわせて臨機応変に対応したほうが良い。
- ・ 考え方の違いにより種々の方略が作成された点がよく理解できた
- ・ 行動目標に到達する為に必要な人的・物的資源の把握に役立った。
- ・ 講義[説明]以外の学習の手段について
- ・ 講義[説明]以外の学習手段について検討
- ・ 講義・実習・SGDの構成や進め方
- ・ 講義だけのものから、時間をとって話し合ってもらおうということもできるようになり、幅が広がった。
- ・ 今まで教育という視点がなく、徒弟制的な指導をしていたが、システマティックな対応が可能であることを知り、実践できた。
- ・ 座学が全てではないので、現場中心での考え方。
- ・ 作成した方略により、効率的に学生を目標に到達させることができる。
- ・ 作成手順
- ・ 指導の方法(行動目標を効率的に履修する方法)
- ・ 指導者や学習者が理解しやすい言葉の選び方
- ・ 指導方法を選択するのに参考になった。
- ・ 事前にLSを検討することができた
- ・ 事前に予定を立てられた
- ・ 時間配分は参考になった。
- ・ 自施設のカリキュラム作成時に必要な資源を検討することにより、不安が軽減した
- ・ 実習スケジュールを作成する際に、「学習方法の選択」を参考にしている
- ・ 実習で具体的に何を行えばよいかの参考になった。
- ・ 実習の計画を立てるのに役に立った
- ・ 実習を行う順番が考えやすかった
- ・ 実習を受けた時の人員と実際に始まった時の人員(-1)が違った為、これについては余り役に立たなかった。
- ・ 実習生の目標達成のための学習方法と順序
- ・ 実習生の目標達成のための学習方法と順序
- ・ 実習全体のイメージを掴むことができた
- ・ 実習内容を標準化できた。
- ・ 実習内容を標準化できた。
- ・ 実務実習の指導者となっていないため、学生を指導することがない為。
- ・ 実務実習の資料作成時に常に考えながら行っている
- ・ 実務実習を担当後にワークショップを受講したため、実際にはまだ活用できていません。
- ・ 受動的な方法、能動的な方法があり、両者を上手く組み合わせるようにする。
- ・ 色々な人の意見を参考に出来た事
- ・ 人的資源、物的資源、予算等を有効に利用することによって学習の成果をより上げることができる。
- ・ 説明→体験の順で行うよりも、体験→説明の順で行う方がモチベーションの向上につながる場合がある。
- ・ 大学の教育の理解ができた
- ・ 知識を詰め込むのではなく、知識をもとにした経験を積み重ねるようにした
- ・ 当院においての方略を考えるのに役立った。
- ・ 到達目標ごとに学習を進めた
- ・ 到達目標の達成とリソースの配分
- ・ 到達目標達成のために効率の良い指導システムの構築。
- ・ 服薬指導に行く前に、どのような準備(病態を知る、薬の説明方法など)が必要か考えてもらった。
- ・ 物的資源の必要性・有効性を学んだ。
- ・ 物的資源も必要であることを学んだ
- ・ 方法の選択時に学習方法を明確にできた
- ・ 方略というものが有るという事を初めて知った。教える方法について考えるようになった。
- ・ 方略の設定方法

- ・ 方略を利用した
- ・ 目標にむかってどうやって達成していけばよいか、学んだこと
- ・ 目標にむかってどうやって達成していけばよいか、学んだこと
- ・ 目標をもって学習することの大切さがよくわかりました。
- ・ 目標を達成するためにいろいろな方法を考えるきっかけとなった。
- ・ 目標を達成するためにどのような方略を選択すべきであるかを考えるようになった。
- ・ 問題点を克服して行く過程で役に立った。
- ・ 薬学教育モデル・コアカリキュラムの学習方略の読み方が分かった
- ・ 様々な学習方法があり SGD についての理解ができたこと。
- ・ 理想では必要だと思っても、現実には難しい場合もある。

【記述 06】

2. ワークショップでの薬学教育に関する実施内容について

(3)学習方略について

- ④ 学習方略の作成について経験したことを実務実習を行う上で活用しましたか。
活用された点が具体的にあれば、お書きください。

- ・ KJ 法を利用した
- ・ SBOs に対して、実施できる指導を考えプランニングした
- ・ SBOs を学習者が効果的に達成するために複数の LS を組み合わせさせた
- ・ SBO ごとの最適な学習方法を策定するにあたり活用した。
- ・ SBO によっては複数の方略が必要ということ。
- ・ SGD で学生から意見を引き出すヒントになりました。
- ・ SGD の手法を活用した
- ・ WS 後、まだ実習担当していません
- ・ カリキュラム作成時に参考にした。
- ・ がん性疼痛治療に関する症例検討を企画するうえで参考になった。
- ・ グループディスカッションを始めた
- ・ コアカリキュラムに記載されている事項を踏まえて実務に即したレポート様式を作成した。
- ・ コアカリの SBOs をそのまま行うだけではなく、担当者が学生に応じて工夫することにつながった。
- ・ スケジュールに明記したことによって理解度が深まった
- ・ スケジュール作成に参考となった
- ・ それぞれのカリキュラムを分類した。
- ・ チェックシート作成
- ・ どのような方法を利用すれば学生の理解が深まるのか多方面から考えてみるようになった。
- ・ ビデオや DVD を使用した。
- ・ モデルコアカリキュラムを実際に活用している。
- ・ リスクマネジメントしていく上で、インシデントレポートを作成したり、医療過誤等の対処法について活用できた
- ・ わくわく出来るようなカリキュラムにしたら楽しいとの意見を聞いて、出来るだけ色々な経験が出来る様に作成した。
- ・ 医療スタッフの業務内容について、我々が説明するのではなく、スタッフ(臨床検査技師など)にお願いした。
- ・ 院内マニュアル作成時に物的資源についてもリストアップするようにした

- ・ 院内実習テキストの作成
- ・ 解決までの組み立て
- ・ 学習資源を何にするか選択できた
- ・ 学習内容の進め方を、指導薬剤師以外の担当者に説明しやすくなり、一律の指導が行えた。
- ・ 学習方法、学生への教え方や学習順序、時間配分をどうするか決めるのに活用した
- ・ 学習方法の選択として、能動的学習方法を多く取り入れた。講義も実践をしながら行った。
- ・ 学習方法や人的・物的資源、時間、場所等を決める上で活用した。
- ・ 学習方法を選択する場面
- ・ 学習方略のプランニングは他の薬剤師が行ったため、実際のプランニングは行っていません
- ・ 学習方略はより具体性が必要となる。提示の仕方が曖昧であれば学生は困惑し、成果を上げることは期待できない。また、目標がはっきりしていても、方略をうまくいようしなければ成果は上がらない。
- ・ 学習方略を自分の施設に合うよう組み直した。
- ・ 学習目標達成の手段として、いろいろな RS を準備して実習生に提示できるように努力している。
- ・ 学生が学習を進めるのにあたり、どうすればよいのか方向性を示唆することができた。
- ・ 学生が受身にならず、達成感を感じられるように配慮した。
- ・ 学生なりに考えをまとめたり、学生同士でディスカッションを行ったり、プレゼンテーションを行ったりする機会を多く設けた。
- ・ 学生に対して、逆にどうすれば理解できると思う? と訊いて、学生に自ら方略を作成させ、自己目標とさせた
- ・ 学生のグループ討論時活用
- ・ 教える前に、学習の進め方を考えるようにした。
- ・ 業務内容を学習方略に添って、作成できた。
- ・ 具体的な行動内容を示すことは指導者、学習者ともモチベーションの維持につながる
- ・ 具体的に、わかりやすい表現にした。
- ・ 具体的にどのように説明し、実習を進めれば良いのかが分かる。
- ・ 具体的行動内容を示すことが出来た
- ・ 具体的事例を使用して考えるケースに、考えるべき点を設定した
- ・ 経験を重ねるうちに形が出来上がってくるのだろうと思います。
- ・ 現場の内容をふんだんに取り込んだ内容にしたこと。
- ・ 現場業務との両立をはかりながら、効率的に効果を上げる為に補助資料を作成した。
- ・ 個人に合わせたプランや時間、計画を立案することが可能になった
- ・ 個別の方略を考えることができた
- ・ 効率的な学習方法
- ・ 座学と実技を適切に組み合わせ、効果的に学生が学習できるよう工夫した。
- ・ 作成手順
- ・ 指導する薬剤師の資料作りに活用
- ・ 指導ノートを作成する時。
- ・ 資源の活用
- ・ 事前準備を行った。
- ・ 示説、見学、シミュレーション実習、ロールプレイ、ビデオ学習、読書、宿題など。